

同志社大学

2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年 3月 4日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・コミュニケーション学部	准教授	脇 田 里 子
研 究 題 目	論理的な文章の構造的な読解に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究は外国人学部留学生のライティング能力を高める一つの方法として、論理的な文章の批判的読解を取り入れることを重視している。学習者が論理的な文章を書くためには、文章を書く前に、論理的な文章の論理展開を理解し、筆者の問題提起、結論、結論を支える根拠を把握できる必要があるという「リーディングとライティングの連携」の立場に立つ。そこで、本研究では、論説文の論理展開を理解するために、思考ツールを用い、論理の一貫性や文章構造理解の支援を目的とした。</p> <p>論理的な文章として、2012年2月～2013年9月の新聞の論説文（朝日新聞「私の視点」、京都新聞「土曜評論」など、1編が1000～1300字程度）の中から10編を選び、学習者による文章構造分析の対象にした。論説文の選択に当たっては、学習者が関心を持ちそうなテーマで、専門性が高すぎず、筆者の主張や根拠が明確なものを重視した。</p> <p>論理的な文章の文章構造分析の枠組みとして、4つの段階を提案した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「段落中心文表」に各段落を要約し、表にまとめる。 2 問題提起・結論・根拠はどこにあり、それは何かの質問に答える。 3 「文章構造図」にて、1の各段落の関係を図示する。（ミクロの展開） 4 「ロジック・チャート（LC）」にて、2の論理展開の関係を図示する。（マクロの展開） <p>以下、文章構造分析に関する授業実践の結果を述べる。まず、学習者は一般の読解において内容に関する質問には慣れているが、論理展開に着目した読解は初めてであった。そのため、1の「段落中心文表」の作成において、学習者にとって最も困難であったのは、「問題提起」は何かであった。なぜなら、新聞の論説文では「問題提起」は疑問文の形式で示されることは少ないためである。また、「根拠」に関しても、結論の明確な根拠として明示している例は少なく、単なる説明や事例なのか、それを「根拠」とみなすのかの判断に揺れた。そして、「結論」は最後の段落と決まっているわけではなく、「結論」の後に、「結論」に対する補足を加えた文章もあった。筆者の論理展開から最後の段落は「結論」なのか、補足なのかを判断することも難しかった。このように判断が揺れる場合には、判断理由が説明できればよし、論理展開の読みとして複数の解釈も可能とした。</p> <p>次に、3の「文章構造図」は段落関係の可視化により、論理構造の流れを視覚的に捉えた。学習者に構造図の基本的な書き方を示したが、学習者によっては、独自の構造図を展開することもあった。最後に、今回の論説文の段落数は10前後が多く、段落数が少なかったため、4の「LC」と3の「文章構造図」の差異は小さかった。今後はこの論理展開の分析力をライティング教育に反映したい。</p> <p>なお、本研究の一部は本学の個人研究奨励費の支援を受けた。付して謝意を表する。</p> <p>研究発表 1「文章構成に着目した学部留学生のためのレポート作成実践」Japanese Studies Association of Australia 2013 Conference, (Australian National University, Canberra, Australia) 2013年7月 論文（発行予定） 1「新聞の論説文読解における文章構造分析—文章構造の可視化の実践—」『第九回香港国際日本語教育・日本研究シンポジウム論文集』（香港日本語教育研究会、最終原稿提出済み、2014年発行予定）</p>	